

# いきいき SMILE

2011夏号

第18号

編集・企画

毎日新聞大阪センター

〒530-0001 大阪市北区梅田3-4-5  
TEL:06-6346-8734

取材協力/川村義肢株式会社

デザイン/ネオジオ

記事・広告のお問い合わせ/毎日新聞大阪センター

すべての人の「元気で長生き」「健康で快適な生活」を応援する総合生活情報紙—いきいきスマイル—

## INTERVIEW



# 自分らしく生活 それが「しあわせ」



国連開発計画親善大使 女 優 紺野美沙子さん

Misako Konno

国際連合の機関の一つで、環境、健康など幅広く開発途上国を支援する国連開発計画(UNDP)の親善大使を務めて13年。これまで延べ10カ国・地域を訪れ、貧困、戦争、病気など開発途上国の現実に向き合ってきた。サッカー選手のロナウドさん(ブラジル)、ジダンさん(フランス)、テニス選手のシャラポワさん(ロシア)らUNDP親善大使は、世界で9人いるが、日本人は紺野美沙子さんだけ。任命された時、「一番驚いたのは本人で、「私でいいの?」との思いはまだまだ去来するが、訪れた先の人とのふれあいで逆に元気づけられてきた。1児の母でもあり、「未来を担う子どもたちに世界を知ってほしい」と願う紺野さんに思いを聞いた。

## INDEX

いきいきインタビュー 1

国連開発計画親善大使 女優 紺野美沙子さん

美加の逸品「楽々通販」 2

みずづ鮎 飯島商店 生ゼリー

いい日いい旅、いいお宿 3

KOBEどこでも車いす 湯原温泉・湯けむりドック 「さをり織り」体験 Sunny♪さんのいきいきヨガVol.1

医療最前線 4

酒向正春医師インタビュー〈上〉

医療最前線 5

ホームドクター訪問② ドキュメンタリー映画「9月11日」 スポーツで地域貢献する企業④ NTT西日本 硬式野球部

福祉最前線 6

横浜市から表彰 日清医療食品 「障がい者雇用のお手本」 トコスエンタプライズ 聴覚障がい者向け お菓子教室開催 いきいき図書館

介護最前線 7

高齢者の食シリーズ④ イベントナビ

リハビリ最前線 8

リハに生かす「木」の力 プレゼント

—98年に親善大使に任命され、延べ10カ国・地域に行かれました。「地域」はパレスチナのことで、カンボジアには2回。今振り返って一番思うことは何ですか?

たよれば今回被災された漁師さんにとって、幸せは漁に出られる、豊かな海があることだと思ふのです。途上国の人たちにとっても、先進国と同じように経済発展するのも大切なことかもしれませんけど、その国や地域に見合った発展のあり方があると思ふので、自分たちの習慣や文化を大事にしながら心穏やかに暮らしてゆけることが幸せなんじゃないか、と最近考えています。

(少し考えて) 東日本大震災の前と後では日本人の価値観が大きく様変わりしたと思えます。震災前は私も小中高校に呼ばれて国際協力の大切さを話してきました。日本では当たり前なことが一歩外(の国)に出ると全く違う。たとえばアジアで最も貧しい東ティモールでは電気の通っていない所の方が珍しい、冷房なし、冷房がない。こうした格差を縮めないとは本当の意味の平和はないのでは、といった話をしてきました。

でも東日本大震災は、家族が一緒にいて平凡な毎日過ごす大切さを考える大きな契機になりました。人間が豊かに幸せに暮らすとは、と考えた時に、やはり自分らしく暮らせること、心穏やかに暮らせることが改めて大事なんじゃないか、

エネルギーは豊富にあるとか、お金が使えるところか—経済発展ですね—これを軌道修正しなくちゃいけないのかな、とだれもが思っている。じゃあどこを目標に、自分の居場所を見つけてくれる、自分らしく生活できる、それが大げさに言えば「しあわせ」「豊かさ」では、と思えますねえ。

今の暮らしは当たり前前ではない、と日本でみんなが考え始めた今、国際協力の分野で自分に何ができるか、改めて考えています。

それと、震災で多くの国が「がんばれニッポン」と日本を助けてくれたことで、「世界の日本の日本」を多くの人々が感じたのではないのでしょうか。

# 舞台・朗読・文学…日本の良さ伝えたい



国連開発計画親善大使で訪れたガーナ・マンヤ・クロボ地区で。子どもたちは全員、エイズ孤児だ=2003年

—親善大使の活動の中で特に強く心に残る経験は？

やはり、人と人とのふれあいですね。たとえば、カンボジアでHIV/エイズに感染した女性たちに働く場を、とUNDPが造った縫製工場に行った時、本当に喜んで帰って歓迎されました。「また来てね。私た

ちの工場を見に来てくれてありがとう」と。心からもてなしてもらったのがわかりました。

それとアフリカ・ガーナ。エイズで亡くなった人の子どもたちを地域で救おうと、「クイン・マザー」と呼ばれる地域のお母さんたちがエイズ孤児を6人ずつ引き取って育てているのです。お母さ

んが子どもを思う気持ちには日本でもアフリカでも変わらないんだなと思いました。

—文学作品やお話の朗読と、音楽や影絵などアートを組み合わせたいライブ「朗読座」を昨年10月から始められましたね。

地域に結びついた文化的な活動ができないか、と始めました。地方が好きなので地方におうかがいしつつ、自分の住む地域で公演を重ね楽しんでいただけないかと考えたんです。

朗読だと長く続けられるでしょうし、年齢(よわい)を重ねたものの味わいも出せるでしょう。大がかりな出し物ではないので地方にも呼んでいただきやすいかと。

インターネット、DVDなど居ながらにして何でも見られる、聴ける時代ですが、一期

一会で同じ時間同じ空間を共にする、ライブの良さも多くの人に感じてほしいのです。

朗読だけ聴き続けるのはちょっと覚悟が要るでしょうから音楽など他のアートと組み合わせています。

—心身の健康のため心がけておられることは？

規則正しい生活、でしょう。早寝早起き、三食きちんと食べる、適度な運動をする、という感じでしょうか、面白味はないんですけど(笑)夜ふかしは昔から苦手で…。

食事は、高校1年、育ちざかりの息子がおり、お肉中心になりがちなので食べやすいサラダにするとかおみそ汁を具だくさんにするなど工夫します。

—今後に向けて抱負を。

自分の好きなことを一生懸命やって喜んで

いただけたいいな、と思います。舞台にしても朗読にしても日本ってこんなにすてきな文学作品が、お芝居が

ある、とか、日本語ってこんなに美しい、というように日本の良さを伝えられる仕事をしたいですね。

## 東京で地方で「朗読座」

「朗読座」は、手づくり感覚で企画を凝らしたユニークな朗読ライブ。地方に積極的に“出張”します。7月後半には、詩を歌うバンド「DiVa」、富山を拠点にする「ジャック・リー・ランダール&マオ・カンパニー」とのコラボで「ベルベットのうさぎ」を3公演、展開します。日程は7月21日、富山県教育文化会館▽7月22日、岐阜県飛騨市文化交流センター▽7月26日、東京・サントリーホール。お問い合わせは、富山、東京公演はOff-Broadway JAPAN事務局(03-5775-6291) 飛騨公演は飛騨市文化交流センター(0577-73-0180)

さらに8月には企画を一新、俳優の渡辺徹さんとのかけ合いでの読むドラマ「あなたはだあれ?」を8月21日、愛知県知立市文化会館「パティオ池鯉鮒」で公演します。日曜なので午後3時開演。お問い合わせはパティオ池鯉鮒(0566-83-8100)

朗読座を含む紺野さんの活動全般のことは公式ウェブサイトhttp://www.konno-misako.com/)をご覧ください。

## PROFILE

紺野 美沙子(こんの・みさこ)

慶應義塾大学卒。1980年、NHK連続テレビ小説「虹を織る」でヒロインとして主演。女優としてテレビ、映画、舞台で活躍。特に舞台は、「細雪」から「イブセン」と硬軟を問わず意欲的に取り組む。ナレーションや朗読など、声の表現の場も多い。08年にはUNDP親善大使の10年間をまとめた「ラララ親善大使」(小学館)を出版。2010年秋から「紺野美沙子の朗読座」を主宰し、定期的に公演を続けている。